様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年　６月１３日現在

機関番号：31311
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2009～2011
課題番号：21730420
研究課題名（和文）　被差別部落マイノリティの社会的アイデンティティと地位達成メカニズムに関する研究

研究課題名（英文）　Studies on the mechanism between Burakumin identity and their achieved status.

研究代表者
内田　龍史（UCHIDA RYUSHI）
尚絅学院大学・総合人間科学部・講師
研究者番号：60515394

研究成果の概要（和文）：本研究は、被差別部落の若者を対象として、「部落民」としての社会的アイデンティティが、学歴・職業等地位達成に与える影響について分析を行った。質的なインタビュー調査と質問紙を用いた量的な調査をともに実施した結果、「部落民」アイデンティティは、部落解放運動や同和対策による行政の支援によって獲得され、継承されてきた側面を明らかにした。しかし、「部落民」アイデンティティと学歴・職業等地位達成との関係については、明確な傾向は見られなかった。

研究成果の概要（英文）：This study analyzed how social identity as "burakumin" of young Buraku people affects on the academic and occupational status achievement. I carried out qualitative interviews and quantitative surveys using a questionnaire. As a result, "Burakumin" identity has been acquired and inherited with the support of the government Dowa measures and Buraku liberation movement. However I couldn't clearly observe the relationship between "burakumin" identity and educational and occupational achievement.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学
キーワード：差別・排除、階級・階層・社会移動、身体・自我・アイデンティティ、マイノリティ

１．研究開始当初の背景

1990 年代以降、若者をとりまく状況は極めて厳しくなっている。これまでのように新規学卒者が正規職員として就職していくという日本独特の「学校から職業への移行システム」が、産業構造の転換に伴う正規雇用から非正規雇用への代替によって機能不全を起こしている。その結果、若年失業者・非正規雇用労働者比率が上昇するなど、学卒後就職し、結婚し、子どもを産み育てるといった、

「大人」として「当たり前」と認識されてきた将来像を、少なくない若者が抱けなくなりつつある。さらに近年では、貧困層の広がりもあり、若者の「社会的排除」問題が深刻化するとともに、若者への支援の必要性が認識されつつある。

その際無視できないのは、困難な状況に直面する若者たちの多くが、社会的に不利な条件に置かれている点である。不安定就労層を代表する「フリーター」が低い階層の出身者から多く輩出される傾向が明らかにされており、教育達成・地位達成と出身階層の関連に関する従来の教育社会学の知見からも、低階層出身の若者たちの困難な状況が明らかになりつつある。加えて部落出身者などマイノリティの立場に置かれた若者たちは、大人への「移行」の困難、日本社会の差別的な構造を強く経験していることが予想される。

近年の研究を見ても、学歴・職業など、部落と部落外の社会経済的不平等が克服されてはいないことが確認されている。しかし、当事者としての部落出身者はどのように「部落民」としての社会的アイデンティティを形成してきたのか、どのように社会的アイデンティティを理解しているのかについての研究は、十分に明らかになっているとは言いがたい。さらに、社会的アイデンティティと進路選択との連関、すなわち、部落出身者がどのような進路選択を行ってきたのか、あるいは行おうとしているのか、そのプロセスについて主観的な意味を読み取りつつ解釈を行い、不平等の再生産にどのような影響を与えているのか、そのメカニズムを解明しようとする試みは少ない。

しかし、部落マイノリティをめぐる研究は、格差・貧困というキーワードが頻出し、活況を帯びている近年の階層研究において、ジェンダー・エスニシティとならんで注目を集めつつある。被差別部落・社会階層・ジェンダーの相互連関と、それらが地位達成に影響を与えるメカニズムを実証的に明らかにすることが、社会階層研究の大きな課題となっていた。

２．研究の目的

（1）部落解放運動や解放教育運動、さらには同和対策事業による政府・自治体の財政的なバックアップのもとで、「部落民」としてのアイデンティティはどのように形成されてきたのか。

（2）同和対策事業による環境改善など、被差別部落の実態の変化は、「部落民」としてのアイデンティティにどのような影響を与えてきたのか。

（3）「部落民」としてのアイデンティティは若者の学歴・職業等地位達成にどのような影響を与えてきたのか、さらには今後どのような影響を与えうると予測されるのか。

３．研究の方法

（1）部落解放運動・解放教育運動・同和行政に関する資料調査を実施し、「部落民」アイデンティティに関するデータを把握した。

（2）部落出身者を対象とした量的調査を、部落解放運動団体を通じて実施した。そのため、現在部落解放運動に関係していない部落出身者が含まれていないデータであることには注意が必要である。調査項目は、学歴・労働に加え、部落出身であることの自覚や、自覚している層については部落出身であることをどのように評価しているのかをたずねた。

（3）質的調査については、部落解放運動団体、解放教育、行政関係者に対して「部落民」アイデンティティ形成のための場についての聞き取り調査を実施した。また、部落出身の若者に対しては生活史聞き取り調査を実施した。

４．研究成果

（1）研究の目的（1）（2）の研究成果として、①黒川みどり編著・内田龍史他著『近代日本の「他者」と向き合う』において、「期待される「部落民像」―アイデンティティの獲得と継承」という論文を執筆した。

その内容は、部落解放運動が進展していた1960年代後半から70年代を中心に、運動が部落の子どもたちにどのような期待をしていたのかを描き出したものである。そこから見えてきた「部落民像」は、地元で差別と闘う「部落民像」であり、そうした像に見合うようなアイデンティティ形成が期待されてきた。「闘う部落民」アイデンティティは、否定的なアイデンティティを肯定的なものに作りかえようとするアイデンティティ・ポリティクスの場となっていた部落解放運動の営みによって獲得されたものであり、部落差別への怒りや部落出身であることへの肯定的なメッセージとともに、部落解放奨学生集会や部落解放子ども会活動などを通じて継承されてきたことを指摘した。

②なお、量的調査の結果である「部落の若者の部落問題意識と部落出身者としてのアイデンティティ――部落青年の部落問題認識調査から」『部落解放研究』（192 号、2011、pp. 72-88）においても、部落解放運動などへの活動参加経験が肯定的アイデンティティを形成する一つの条件となっていることから、「部落民」アイデンティティは社会運動

である部落解放運動などによって獲得され、継承されてきた傾向が確認できる。

（2）研究成果（1）に関連して、「部落差別とアイデンティティ――「期待される「部落民像」――アイデンティティの獲得と継承」の意図」（『ヒューマンライツ』279 巻、pp.23-26）において、部落差別解消のために従来から提唱されてきた「部落差別の無根拠性」なるロジックが、「部落民」アイデンティティを無化する潜在化圧力となることを指摘し、部落のアイデンティティをめぐる現状分析を行った。

（3）研究の目的（3）について、アイデンティティの現状を把握するための量的な調査を実施した。その代表的なものは、「大阪における部落の変化と女性若年層――大阪府連女性部調査から」『部落解放研究』(189 号、2010、pp. 12-28)、「都市型部落における労働・生活とアイデンティティ――「2009 年住吉地域労働実態調査」から」『部落解放』(641 号、2011、pp. 78-86)、「佐賀県における被差別部落の現状――「佐賀県の被差別部落生活実態調査」から」『佐賀部落解放研究所紀要』（28 号、2011、pp. 36-64)、「部落の若者の部落問題意識と部落出身者としてのアイデンティティ――部落青年の部落問題認識調査から」『部落解放研究』（192 号、2011、pp. 72-88）である。

部落出身であると自覚している層のアイデンティティの内実を把握するために、主成分分析を用いてその特徴をまとめたところ、多くの場合、「肯定的なアイデンティティ」「差別への不安」「共通感情」の３つにまとめられることが確認された。

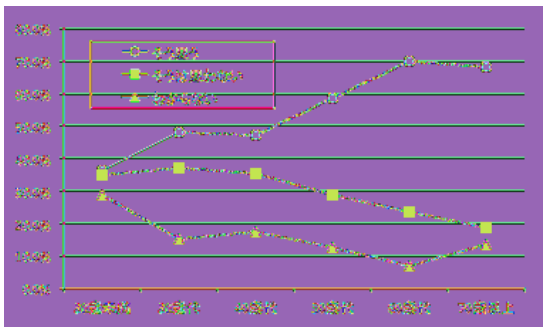

図１　年齢階層別に見た部落出身であるという自覚（「佐賀県における被差別部落の現状――「佐賀県の被差別部落生活実態調査」から」より）

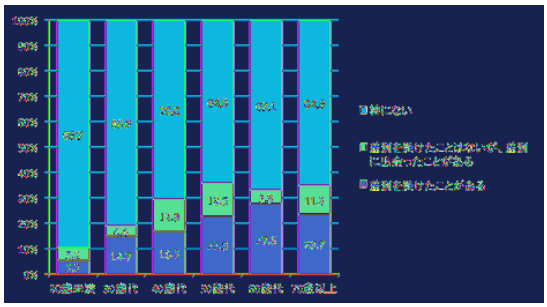

図２　年齢階層別に見た部落差別を受けた体験（「佐賀県における被差別部落の現状――「佐賀県の被差別部落生活実態調査」から」より）

また、いずれの調査研究においても共通してみられるのは、相対的に高齢層では「部落出身」であると自覚する割合が高く、若年層ではその割合が低いことである（図１）。同時に、若年層では他の年齢階層と比べて、部落差別があるという認識や実際の被差別体験を受けた割合が少ないことも明らかとなった（図２）。

（4）研究成果（3）で明らかにしたアイデンティティの現状と、学歴・職業等地位達成との関係であるが、学歴と職業達成に関しては、高学歴層ほど正規雇用、低学歴層ほど非正規雇用あるいは無業といった傾向がはっきりと見られる。しかし、部落出身であることの自覚や、アイデンティティの特徴としての「肯定的なアイデンティティ」「差別への不安」「共通感情」といった変数と、学歴・職業等地位達成に関する変数とのあいだには、これまでの分析作業においては、多くの場合、有意な差が見られなかった。

筆者が得たデータは、少なくとも現在、部落解放運動に関係している当事者やその家族を対象としているため、部落外に出た部落出身者や、部落解放運動に関係していない部落内居住者の存在が含まれていない。そうした層が除かれたデータであるという限界に留意しつつも、ひとまずのところ、部落解放運動に関係している層においては、「部落民」アイデンティティと学歴・職業等地位達成に関しては明確な関係は見られないと言える。しかし、ではなぜそうなるのかについては、今後の再分析や、質的調査などによる再検討が必要となる。

（5）部落出身の若者に対する生活史聞き取り調査については、10 数名の若者にインタビューを行い、雑誌『部落解放』(解放出版社、第 618 号・第 639 号・第 648 号・第 654 号）にてその内容を順次紹介した。こうした取り組みは、部落出身者の「顔が見えない」ことによって生じる、部落出身者に対する偏見を

取り除くという啓発的な意味も込めている。
　こうした聞き取り調査からも、若い世代において、「部落民」アイデンティティは部落解放運動などによって獲得され、継承されてきた傾向を確認した。また、聞き取り調査からは、学歴・職業達成が多様であることを把握することができた。
　聞き取り調査の内容については今後再構成し、単行本として発刊する予定である。

（6）以上の成果をあげてきた本研究の国内外における位置づけとインパクトをあげるとすれば、部落出身の若者に対する量的調査がほとんど行われていないなかで、調査を実施し、学歴・職業・アイデンティティの現状を把握したことそのものに、大きな意義があると言えよう。同和対策に関する特別措置法が存在していた当時は行政による現状把握のためのさまざまな調査が実施されていたが、現在は部落問題の現状を把握するための調査そのものが少なくなっている。
　そうした中で、これらの調査を行うことができたのは、「部落出身である」と自覚する人びとにアプローチすることを可能とした、部落解放運動団体などの当事者との長年のラポールがある筆者ならではの成果である。
　他方で、当初予定していたよりも量的な調査を多数実施することができたため、３年間で十分な分析にまで至らなかった。例えば、本調査研究の対象となった層からは、これまでのところ学歴・地位達成と「部落民」アイデンティティとの明確な関係を見いだせていない。今後の展望として、量的調査のデータに加え、生活史調査などの質的調査のデータを総合して再分析を行い、何らかの明確な知見を見いだすことが課題となる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

①内田龍史、部落問題を語ることの困難とその可能性、部落解放、618 号、査読無、2009、pp.49-59.
②内田龍史、大阪における部落の変化と女性若年層――大阪府連女性部調査から、『部落解放研究、189 号、pp.12-28.（http://blhrri.org/info/book_guide/kiyou/ronbun/kiyou_0189-02_uchida.pdf）
③内田龍史、都市型部落における労働・生活とアイデンティティ――「2009 年住吉地域労働実態調査」から、部落解放、641 号、査読無、2011、pp.78-86.
④妻木進吾、内田龍史、佐賀県における被差別部落の現状――「佐賀県の被差別部落生活実態調査」から、佐賀部落解放研究所紀要、査読無、28 号、2011、pp.36-64.
⑤内田龍史、部落差別とアイデンティティ――「期待される「部落民像」――アイデンティティの獲得と継承」の意図、ヒューマンライツ、査読無、279 巻、2011、pp.23-26.
⑥内田龍史、部落の若者の部落問題意識と部落出身者としてのアイデンティティ――部落青年の部落問題認識調査から、部落解放研究、査読有、192 号、2011、pp.72-88.（http://blhrri.org/info/book_guide/kiyou/ronbun/kiyou_0192-07_uchida.pdf）

〔学会発表〕（計２件）

①内田龍史、共同報告：被差別部落女性と差別・不平等――被差別部落女性の実態調査から　（1）アイデンティティ・差別・社会関係、第 60 回関西社会学会大会、2009 年 5 月 23 日、京都大学
②内田龍史、共同報告：変容する都市型部落――2009 年住吉地域労働実態調査から　１．住吉地区の変容と部落（民）アイデンティティ、第 61 回関西社会学会大会、2010 年 5 月 29 日、名古屋市立大学

〔図書〕（計１件）

黒川みどり編著、内田龍史他著、部落解放・人権研究所、近代日本の「他者」と向き合う、2011、281-308.

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://web.me.com/ryu_shi/Site/index.html
http://web.me.com/ryu_shi/Site/page2/page2.html

６．研究組織

(1)研究代表者

内田　龍史（UCHIDA RYUSHI）
尚絅学院大学・総合人間科学部・講師
研究者番号：60515394

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし